

第30回夏季大学実施報告

序

1996年7月31日～8月2日の3日間、東京大学山上会館で第30回夏季大学を実施し、119名の参加者があった。猛暑の中、講演と実習、懇親会という盛りだくさんのメニューを無事終了することができた。お世話になった方々に感謝いたします。

テーマと講義

今回は“新しい気象学「長期予報と地球規模の気象」”というテーマで7名の講師の方に以下の題目で講演いただいた。

7月31日(水)：

「プロッキング-中高緯度の長周期変動-
(木本昌秀氏)」

「ENSO-エルニーニョと南方振動-
(北村佳照氏)」

「熱帯の長周期変動とモンスーン変動
(中澤哲夫氏)」

8月1日(木)：

「極域雪氷圏と気候 (小野延雄氏)」

「気候予報とその将来展望 (時岡達志氏)」

「1か月予報の技術(アンサンブル予報)
(高野清治氏)」

8月2日(金)：

「防災気象情報の読み方(実習)
(村中 明氏)」

アンケート結果

アンケートには79名の方から回答が寄せられた。概要(無回答を除く)を以下に紹介する。

年齢 10代0名, 20代12名, 30代22名, 40代26名, 50代8名, 60以上9名

職業など 教職員19名, 学生4名, 気象関連業務7名, その他48名(会社員18名が最多)

参加目的 教材研究15名, 業務上の参考17名, 教養または趣味50名, 気象予報士試験の準備12名, その他2名

参加回数 初めて33名, 2回目22名, 3回目6名, 4回以上17名

開講を知った手段 「天気」38名, 「気象」38名, 「地球教育」1名, 「気象友の会会報」10名, その他7名

受講料の評価 高い6名, 適当66名, 安い6名

気象学会員で ある39名, ない40名

開催時期の希望 7月下旬17名, 8月上旬23名, 8月中旬6名, 8月下旬8名

昨年と比較すると、教材研究を目的とした教員の参加者が増え、予報士試験の準備を目的とした参加者が減ったことが特徴である。

意見や感想では、まず、講義や実習のレベルや内容については、概ね適当で興味深かつ役に立つ内容であると考えている人が多かったが、一部に、もう少し数式や専門用語を使ってもよい(難しくしてもよい)という意見もあった。

受講者層の広がり(分野・レベル共)に1つの企画だけでは十分に対応しきれないという以前から指摘されている課題が、よりはっきりとした形で現われてきている。

会場と施設については、場所のわかりにくさ、空調の弱さ、飲み物の調達の不便さに不満が寄せられたが、それ以外は好感を持っていたというようである。

今後の夏季大学に希望するテーマとしては、ダウンバースト・竜巻・集中豪雨など「シビアウェザー」を挙げた人が12人で最も多く、次いで「台風」の10人、「防災」と「数値予報」の各6人、「気象衛星」の5人という順になっている。

印象

今回も講師の方において、各講演の最後に質問の時間を確保した。昨年よりは質問の数がやや少なかったという印象はあるが、それぞれの興味に応じて要所で質問が出ていた。

懇親会

受講者で懇親会に参加した人は24人で昨年より減った。有意義であったとの意見が大多数だったが、一部に「マンネリ化」しているとの批判もあった。

運営上の反省点

会場の収容能力と受講申し込み者の数がほぼ一致したため、特に大きな問題はなかった。ビデオやOHP、マイクフォンや座席・机などの設備も良かった。設備の内容から考えて破格の使用料で比較的広い会場を借りることができたことが幸いであった。来年も同じ会場を早めに確保することができればと考えている。

テキストは10月現在で200部あまりの販売残がある。これからも機会(春季・秋季大会や夏季大学)ごとに販売が見込まれるので無駄にはならないが、若干見込

み違いだった。テーマだけから事前に正確な販売量を に検討して印刷部数を決めたい。
 予測することはなかなか難しいが、来年はさらに慎重

(教育と普及委員会)

日本気象学会および関連学会行事予定

行事名	開催年月日	主催団体等	場所	備考
第10回メソ気象研究会	1996年11月5日		名古屋国際会議場 (白鳥センチュリープラザ) (名古屋市)	名古屋大学大気水圏科学研究所 加藤内蔵進 Tel. 052-789-3494 Fax. 052-789-3436 e-mail:kuranos@ihas.nagoya-u.ac.jp
日本気象学会1996年度 秋季大会	1996年11月6日 ～8日	日本気象学会	名古屋国際会議場 (白鳥センチュリープラザ) (名古屋市)	日本気象学会中部支部 Tel. 052-751-5123 Fax. 052-762-1242
第33回自然災害科学総合 シンポジウム	1996年11月6日	文部省科学研究費「基盤 研究(A)(1)」自然災害総 合研究班	長崎県農協会館 (長崎市)	九州大学応用力学研究所 植田洋匡 Tel. 092-583-7771
第15回日本自然災害学会 学術講演会	1996年11月7日 ～8日	日本自然災害学会	長崎県農協会館 (長崎市)	長崎大学工学部 後藤恵之輔 Tel. 0958-47-1111 (内2707)
大気海洋陸面相互作用 研究会	1996年11月9日		名古屋大学大気水圏 科学研究所 (名古屋市)	気象研究所応用気象研究部 高薮出 Tel. 0298-53-8620 Fax. 0298-55-7240 e-mail:takayabu@mri-jma.go.jp
平成8年度大槌シンポジウム 「北西太平洋を中心とする グローバルな大気海洋相 互作用」	1996年11月12日 ～13日		東京大学海洋研究所大 槌臨海海洋センター講堂 (岩手県上閉伊郡大槌町)	三重大学生物資源学部海洋 環境学講座 関根義彦 Tel. 0592-31-9550 Fax. 0592-31-9540 e-mail:sekine.@bio.mie-u.ac.jp
第2回公開シンポジウム 「自然災害と環境影響」	1996年11月15日	日産科学振興財団	JAホール(前農協ホール) (東京都千代田区)	(財)日産科学振興財団 Tel. 03-3543-5597 Fax. 03-3543-5598 e-mail:at02-nsj@t3.rim.or.jp
モンスーンアジアの気候 システムに関する 国際ワークショップ	1996年12月3日 ～7日	科学技術庁・東京大学気 候システム研究セン ター・気象研究所(共催)	京都市国際交流会館	気象研究所台風研究部 山崎信雄 Tel. 0298-53-8668 Fax. 0298-55-2683 e-mail:nyamazak@mri-jma.go.jp
第14回風工学シンポジウム	1996年12月4日 ～6日	日本学術会議 災害工学研究連絡 委員会	日本学術会議講堂 (東京都港区)	第14回風工学シンポジウム運営委 員会事務局(担当:清瀬, 佐々木) (社団法人電気学会内) Tel. 03-3221-7201 Fax. 03-3221-3704